

令和8年8月25日

データサイエンス・オンライン講座 「社会人のためのデータサイエンス演習」の受講者募集開始

総務省は、統計リテラシー向上の取組として、“データサイエンス”力の高い人材育成のため、データサイエンス・オンライン講座「社会人のためのデータサイエンス演習」を令和8年10月13日（火）から開講することとし、本日から受講者の募集を開始します。是非御受講ください。

○講座の概要

データ分析（統計分析）の手法を、表計算ソフト（Microsoft Excel）や統計解析ソフトRを使った演習を交えて学習します。演習は全てビジネス上の事例を想定した実践的な内容です。

本講座は、平成28年4月に初めて開講し、これまで延べ約10万7千人に受講していただきました。

○開講期間

令和8年10月13日（火）～12月22日（火）の予定です。

○受講登録

本講座紹介用ウェブサイト（<https://gacco.org/stat-japan2/>）において、どなたでも受講登録が可能（登録料及び受講料無料）ですので、是非御登録ください。

※ 受講登録は、令和8年11月30日（月）までの予定です。

（別紙）

データサイエンス・オンライン講座「社会人のためのデータサイエンス演習」
の概要

（連絡先）

統計局統計情報利用推進課

担当：高橋 入江 丹野

電話：03-5273-1023（直通）

E-mail: y-senryaku_atmark_soumu.go.jp

（スパムメール防止のため、「@」を「_atmark_」と表示しています。メールを送る際に「_atmark_」を「@」に直して入力してください。）

講座の目的：Excelや統計解析ソフトRを使った
実践的なデータ分析（統計分析）の手法を習得する
開講期間：令和8年10月13日（火）～12月22日（火）予定
学習時間：1回10分程度×5～8回程度（1週間）×5週
※Excelの演習を含む。このほかにRの演習有り
（特別週。10分程度×8回）
課題：各週の確認テストと最終課題の実施
講師：松尾豊氏（東京大学大学院工学系研究科教授）ほか



週※	各週のテーマ	内容
1	データサイエンスとは	データサイエンスに必要な知識やデータ分析のサイクルを学ぶ （データサイエンスの未来と必要性、求められるスキルや知識、課題解決法等）
2	現状を把握して課題を見つける	データの特徴や2変数間の関連性を捉える方法を学ぶ （データの特徴や傾向をつかむ、相関分析等）
3	過去のデータから未来を予測してみよう	様々な変数から他の1変数を予測する方法を学ぶ （単回帰分析、重回帰分析、時系列データ分析等）
4	その差は偶然？それとも意味のある差？～結果を解釈する力をみにつける～	データ間に生じる差が偶然か意味のある差かを判定する方法を学ぶ （2つの母平均の差の検定、2項検定と独立性の検定、統計的因果推論等）
5	ビジネスでデータサイエンスを活用するにあたって	分析結果の報告方法や、データを扱う際の注意点を学ぶ （分析結果の報告、ビジネスケーススタディ、データ倫理等）

※2～4週において表計算ソフト（Microsoft Excel）の演習を実施。このほかに、特別週として統計解析ソフトRの演習を実施

▶ 講座の流れ

講義動画



確認テスト及び最終課題



修了証の発行

講師による説明動画でデータサイエンスを分かりやすく解説

各週の確認テストにより理解度を確認、最終課題により習熟度を確認

確認テスト及び最終課題の得点率により修了証を取得

▶ 今年度開講予定のデータサイエンス・オンライン講座

「社会人のためのデータサイエンス入門」

（講座の特徴）

統計データ分析の基本的な知識を学べる入門編講座

（開講時期）

令和8年8月

（学習時間）

1回10分程度×6～9回程度
（1週間）×4週

（実績）

社会人を中心に延べ
約23万1千人が受講

「社会人のためのデータサイエンス演習」

（講座の特徴）

「社会人のためのデータサイエンス入門」を踏まえ、より実践的な内容へ

（開講予定時期）

令和8年10月

（学習時間）

1回10分程度×5～7回程度
（1週間）×5週

（実績）

社会人を中心に延べ
約10万7千人が受講

「“わかる・使える”統計解析プログラミング」

（講座の特徴）

Pythonを使った演習を通じて、統計解析の基礎知識やデータの活用方法まで学べる講座

（開講予定時期）

令和9年1月

（学習時間）

1回10分程度×5～7回程度
（1週間）×4週

新規開講